

負債論

貨幣と暴力の5000年

デヴィッド・グレーバー

著酒井隆史監訳

高祖岩三郎、佐々木夏子訳

へ本書でわたしが試みたのは、次代の展望を提示することではなく、わたしたちの視野を開放し、わたしたちの可能性についての感覚を拡大することへつまり、時代にふさわしい大きな尺度で思考を開始するとはどういうことか、問いかけはじめることであるへ負債をメインテーマに貨幣と暴力の5000年史を描き出す試み。ここでは負債の原論から、負債は貨幣として論じられ、コミュニティ・交換・ヒエラルキーの把握、人間経済から商業経済への飛躍といった理論的概念を説いた上で、壮大な5000年史の展開へ。現代資本主義と文明の危機を説明すると同時に社会変革の理路を示す大著だ。

負債論

貨幣と暴力の5000年



A5判 / 770頁 / 6000円
以文社